

近代の都市づくり

— 三大都市への道 —



池田 誠一

【6】共進会〈明治40年代〉…近代への脱皮

1 開府300年

明治40年代は、5年しかありませんでしたが、名古屋にとって大きな画期となりました。世は日露戦争景気から一気に没落し、銀行の取り付け騒ぎが頻発するような時代でしたが、名古屋は明治43年の開府300年を控えていたのです。40年には、前回紹介したように、熱田町の合併、名古屋港の開港という大きな節目がありました。そして引き続き、三百年祭に取り組み始めたのです。

その年の5月、三重県で第9回の関西府県連合共進会が開催されていました。共進会とは、地方の産業博覧会につけられた名称で、この会は関西地方の府県が集まって、三年ごとに回り持ちで開かれる産業振興のイベントでした。

その関西府県連合共進会(以下、共進会)三重大会の最終日、「次回は愛知県で」と要請されたのです。深野愛知県知事は、期するところがあってか、「施設等は一任」という条件を付けて、引き受けました。

今回は、こうして始まった明治40年代の



図1 鶴舞公園で開かれた第10回関西府県連合共進会の絵葉書(正門) 人間が小さく…

名古屋を追ってみます(図1)。

2 「明治」のまとめ

(1)三角同盟

この頃の名古屋は、県知事が深野一三(任期:M35~T2)、市長が市会議長からの加藤重三郎(同:M39~44)、そして商業会議所会頭が奥田正香(同:M26~T2)という顔ぶれでした。いずれも過去の経験豊かな実力者で、そのうえ三人の心がそろっていたようです。世の人は、この三人のことを「三角同盟」と呼びました。三巨頭とひとまとめに

するのではなく、三角同盟と一定の距離を置く表現にしていることは、その評価を表しています。

この連携は、明治40年頃に集中して実現した大事業を見ればわかります。

- ① 熱田町の合併と市域の拡大
- ② 市の4区制の実施
- ③ 熱田街道(幅13間)の設置
- ④ 名古屋港2期工事着工と臨港線建設
- ⑤ 第八高等学校の誘致と開学
- ⑥ 新堀川建設と公園(鶴舞公園)用地確保
- ⑦ 上下水道工事に着手 と。

加えて、

⑧ 名古屋三百年祭と共進会の開催決定もその連携の一端といえるでしょう。これらはいずれも1団体だけではなく、県の許認可や地元や経済界の協力等が必要となる事業だからです。

しかし、この多くの成果を残した三角同盟は、大正2年に遊郭の稲永移転問題に端を発した疑獄事件で、皆無罪ではありましたが、結果的に崩壊することになったのです。

(2)三百年祭と共進会

名古屋の開府は1610年とされ、1910年、即ち明治43年はその300年に当たりました。このため市は、早々と準備を始めていました。40年早々の記録に、すでに委員会の設置や予算案の作成が見られます。その中には、初代藩主義直を顕彰する神社や港の水族館の建設等と並んで、イベント会場内の恒久施設建設が目論まれています。したがって共進会は、三角同盟の了解の上で誘致されたと考えられるのです。

共進会の開催には、まず、①会場の決定、②アクセスの計画、③会場計画、が必要にな

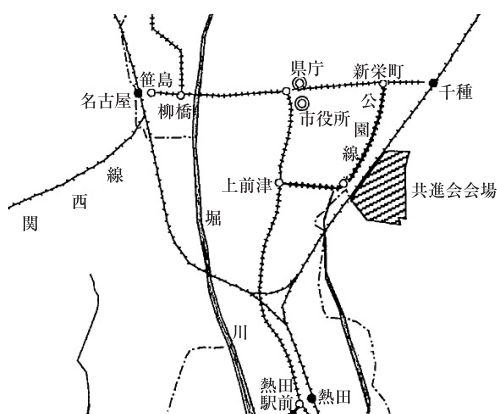


図2 共進会会場へのアクセスルート

ります。①は、公園設置の目的で取得した精進川改修の残土処分場、すなわち今の鶴舞公園を市が無償貸与することになりました。②は、栄町から東と南に延伸されたばかりの幹線道路を生かし、その途中の新栄町と上前津から会場に幅8間(14.5m)の道路を新設しました。同時に路面電車を延伸したのです(図2)。さらに③会場は、まず公園の恒久施設である噴水塔と奏楽堂を計画したうえで、それを中心に会場計画が立案されています。

第10回の共進会は、知事が「施設等の一任」を取り付けただけあって、豪華なものになりました。噴水塔と奏楽堂の間に正門を含む巨大な本館が南北に建ちました(再：図1)。会場は10万坪。現在の鶴舞公園と名大病院の範囲です。その中に、本館をはじめ様々な展示場や娯楽施設が立てられました。迎賓館として、会場内の吉田山に市が金閣寺そっくりの建物を建築しています(戦災で焼失)。そして夜間は、会場全体を照らすイルミネーションが市民を驚かせました。

その結果、共進会は会期90日間で263万人の人を集め、国が開く内国勸業博並みの博覧会になりました。名古屋人も、この博覧会で、「近代」という時代を改めて実感すると同時に

自信を持ったに違いありません。

(3)街の広がり

以上のように、明治40年代は名古屋が大きく変わった時でした。街も、広小路通や南大津通に近代建築が並び始めるなど、その姿が出来上がってきたのです。街の範囲も拡大し、東は覚王山や八事方面に、南は熱田を越えて名古屋港まで電車が走るようになりました。

一方遅れていた碁盤割の北側の街も、名古屋城のお堀を使って電車が走ることになり、東北部には大曽根、西北部には円頓寺という拠点が出来たのです。名古屋市は、人口40万人を越す大都市の姿を見せ始めました。

(4)京都と名古屋

名古屋の明治時代45年間を見ると、その時代の京都との類似性に気が付きます。明治維新で京都は東京奠都で没落しましたが、名古屋も廃藩で中心を失いました。しかし京都は、榎村・北垣という知事が頑張りました。名古屋は、吉田禄在というリーダーが街を引っ張りました。この両者が将来にかけたのは、産業、とりわけ工業です。

共通するのはインフラ整備と博覧会開催です。京都は琵琶湖疎水にかけました。名古屋

		京 都	名 古 屋
契機	明治維新	東京奠都	藩の消滅
前半	人材	知事：榎村・北垣	区長：吉田禄在
	着目	産業、とりわけ 工業	
	事業	琵琶湖疎水	名古屋港と新堀川
後半	成果	水力発電	工業用地
	着目	博 覧 会	
	事業	遷都 1100 年記念祭 (第 4 回 内国勸業博覧会)	開府 300 年記念祭 (第 10 回 関西府県連合共進会)
	残存	平安神宮 岡崎公園	尾陽神社 鶴舞公園

図3 明治時代の京都と名古屋の政策の類似性

は港と新堀川です。そして京都は遷都1100年を期して国の内国勸業博覧会を誘致し、平安神宮や岡崎公園が残りました。名古屋は開府300年を記念して関西府県連合共進会を行い、鶴舞公園が残ったのです(図3)。

我が国第3の都市・京都を追うように名古屋の明治が展開されていたのかもしれない。

3 紀行 鶴舞公園

… 近代名古屋のメモリアル …

今回は、名古屋の近代の大きな節目になった鶴舞公園を訪ねてみましょう。上前津からアクセスルートに沿って公園に向かいます。

〈上前津から〉

地下鉄上前津駅の5番出口を出ます。東に下っている道が、戦後拡幅されていますが、



上前津交差点から鶴舞公園方向を望む



新堀川にかかる記念橋。背後はビル街に変わっている

共進会へのアクセスで造られた道路です。

下りきると精進川を改修した新堀川を渡ります。橋は記念橋と名付けられています。開府三百年の記念ということでしょうか。戦後地下鉄工事で全面改修されています。

進むと、大きな鶴舞の交差点です。南部のアクセス道路はここまでで、左にカーブして新栄町までの東部のアクセス道路となります。歩道橋を渡し、中央線のガードをくぐると鶴舞(つま)公園です。

正面遠くに噴水塔が見えます。共進会の時は塔の向こうに正門があり、ここからは正門前の広い広場でした。噴水塔に進みます。水道もない時代に高さ10mの噴水塔にどうやって水を上げていたのか、などと考えなが



共進会でつくられた高さ10mの噴水塔。
当時は東洋一といわれた



共進会でつくられた奏楽堂。会場内の中心的施設。
戦後原型で再建された

ら噴水を回ります。北側には昭和初に建てられた公会堂が目を引きます。塔の反対側に出て、東に行くと奏楽堂があります。ここが共進会の会場内の中心でした。室戸台風で傷み、戦後、元の姿で復元されています。

噴水塔に戻り、左にすぐの所で囲みの中に入ると普選壇があります。昭和3年、普通選挙制度の実施を記念してつくられました。壇の上に五か条の御誓文が刻まれた青銅版のある野外ステージになっています。鶴舞公園は社会運動の大集会の場所でもありました。南に進むと陸上競技場ですが、ここは昭和5年に行われた御大典記念博覧会の主会場だったところ。東に進み、丘を登ると野球場があります。元名古屋区長だった吉田禄在が寄付をした所で、吉田山と呼ばれます。共進会では金閣寺そっくりの迎賓館が造られていました。戦災で焼失し野球場に改造されました。東奥を左手に進むと龍ヶ池です。



普通選挙法成立を記念した普選壇。
五か条の御誓文の青銅版が埋め込まれた

〈新栄町へ〉

鶴舞の地は湿地帯を新堀川築造の残土で埋め立てたところ。この池はその上の溜め池でした。土手を進み、右手に入ったところに地元から出た総理大臣加藤高明の銅像の台座が残ります。像は戦時に供出されてしまいましたが、先ほどの普通選挙制度確立に尽くした氏の志は忘れてはなりません。北に抜け



普通選挙法の功労者、地元出身の加藤高明首相の銅像台座。銅像は戦争で供出された



共進会会場は道路右側の名大医学部・病院も含まれていた

ると名工大の前の道路です。

道の北側は、今は名大の医学部と大学病院ですが、そこも共進会の会場でした。西に緑豊かな坂道を下り、中央線のガードを抜けると広い通りに出ます。この付近は、戦後、道路が変更・拡幅されており、共進会のアクセス道路は、道路を渡った向こう側を北に薄い角度で分岐する道です。幅は当初造られた8間のままで、ここを路面電車も走っていたのです。

まっすぐ進むと、百米道路を渡った左向こうに広い区画の土地が残っています。ここがこの路線の老松の電車車庫でした。道はまっすぐ北に進みます。途中の街園にしゃれた路面電車のモニュメントがありました。8間幅



新栄町へのアクセス道路跡(左側)。幹線道路から外れ、旧電車通りとしてそのまま残るという電車通りの魅力を考えながら進むと広小路通の新栄町で、北に少し行くと錦通に地下鉄新栄駅の出口があります。

4 デパートメントストアー

明治時代の末、共進会と共に名古屋の近代を象徴するものができました。全国でもトップクラスの「デパートメントストアー」です。

共進会に先立つこと10日程。都心栄町の西南角に、丸いドームの屋根を持つ3階建ての洋館、いとう呉服店がオープンしました。その店は、陳列方式で正価表示の他、品そろえも多く食堂もあり、そして女店員の採用という従来にない「百貨店」だったのです。

経営者、伊藤守松は、1年ほど前、渋沢栄一の率いる渡米実業団に参加し、アメリカのデパートの詳細を勉強してきていました。そして百貨店に事業の将来を賭けたのです。

名古屋は、明治の45年間を経て、近代都市へと脱皮することができたのかもしれない。

〈主な参考文献〉

- ①同編集委員会『新修名古屋市史⑥』
(2000、名古屋市)
- ②池田誠一『名古屋の街と博覧会③』
(2013、日本電気協会中部支部HP)